日本医療福祉生協連近畿ブロック有志
ボランティアセンター　東日本大震災支援ニュース

ＮＯ．４　２０１１年５月８日　発行担当　尼崎医療生協・瀬井

真庭区民センターで「もってけ市」や餅つきで地域と避難者が仲良く交流

西垣さん（たじま医療）、黒田さん（コープおおさか）、大田さん（みやぎ県南）の３名は午前中、真庭区民会館での「もってけ市」のお手伝いに参加。避難所の方と周辺地域の方に自由に貰って頂く企画です。衣類を男女でブルーシートに分けて、サイズ・種類別に仕分けました（神戸医療と神戸健康共和会の皆さんが連休中に来た際、仕分けをしていただいたのでとても助かりました）。真庭区民会館の餅つき大会と岐阜から来られているボランティアの炊き出しも一緒に催され、避難所は大いに盛り上がりました。真庭区の皆さん、避難者の皆さんで合わせて１５０人位の参加となり、大変よい企画になりました。

山元町組合員宅で泥だしの手伝い

西垣、黒田、太田チームは、午後から山元町の沿岸部で被災された組合員さんのＹさん宅に訪問。津波は家屋の２階部分まで到達しており、畳などは全く使えない状態。家の前の側溝から泥の掻き出しを３０メートルほど行うこととなりました。側溝の上のおも～い畳２６枚の移動から始まり、作業が完了するまで３時間ほどかかりました。こちらのお宅はお母さん、娘さんの２人暮らしです。沿岸部に近く住みづづけられるのかという国の方針は決まっていませんが、それを待ってられず、２階に住みながら家の片づけを続けられています。行政による家屋の損壊状態の認定も、この地域では家屋に残った水位をメジャーで測り、大規模半壊（全壊ではない！）と判定して帰ったということで、地域で不満の声が広がっているようです。Ｙさん宅も水を届けながら、継続して顔を出すことにしました。

組合員理事さん宅の家財の運び出し

梅津専務、組合員さん２人（水戸さん、二階堂さん）、瀬井の４人で山元町沿岸部の釜菟理事さん宅の家財の持ち出しを行いました。１０時に町役場前に集合し、通行許可書をもらい自宅へ移動。釜菟さんはちょうど１年前に奥様を亡くされ１人住まい。いまは息子さん宅に身を寄せおり、今後アパートを借りる方向で検討しています。沿岸部から約３００ｍ。２階まで津波が押し寄せました。町の車２台（２人づつ）が

尋常ではない雰囲気で逃げるようにアナウンスをしていたのを聞いて車でまっすく役場の方へ逃げることができたそうです。この町の車２台は津波で流されて４人とも亡くなったとのこと。家はかろうじて残っているものの１階部分は壁がなくなり無残な状況。

ここに来るのもこれが最後かなぁと、思い出語りながら家財の運び出しをされている姿を見るのがとてもつらかったです。梅津専務が玄関先で位牌を発見。釜菰宅でも仏壇ごと流され、位牌を探していたので期待しましたが残念ながら別の方のもの。大事なものなので、届け先となっている近くの山下第二小学校に届けました。家が決まるまでの間、家財は月の貴事務所に保管することとなりました。運び出しを終了し出発しようかとしていると、坂元支所のＳさんが車で･･･。なんと隣のお宅の方でした。

山下第一小学校避難所へ

午後、次の現地責任者、神戸医療生協の森浩司さんが到着。加藤さん、遠藤町会議員と役場で顔合わせをすることができました。加藤さんと山下第一小学校避難所へ初めて訪問。本部責任者の方と懇談することができました。避難所の運営はそれぞれの避難所に任されており、避難者が運営しているところ、町の職員が運営しているところ、避難地域の区の住民が運営しているところ様々であることがわかりました。山下第一小では 10 日目くらいから避難者の中から本部長を決め、自治が大変進んでおり、物資もスムーズに避難者に届いているようでした。ただ、地域によっては家族を亡くし、命からがら逃げてきた方も多い地域では自治を求めるのも酷なことかもしれないという話題にもなりました。

りんごラジオ　金子さんから情報提供

りんごラジオ、町ボランティアセンターには毎日ニュースを届けています。今日はりんごラジオの金子さんが、わざわざコピーして最新情報をくださいました。①アスベスト対策としての防塵マスク３万枚が宮城県から町に届き、１世帯６枚無料配布されること、②家は残っているが地震で傾いたところに対して基準が緩和され半壊から大規模半壊になること（職員が申請者の申し出なく町が再調査を行い罹災証明を発行する）事などの情報をいただけました。金子さんに感謝。

りんごラジオの放送が、この間支援に入っている坂元地区では聞けない地域が多く、いただいた情報をいかに届けるということも今後の課題です。

感想

９日間、２人目以降の現地責任者の仕事づくりを、なんとか最低限の範囲で行うことができました。今回の震災は規模が大きく、被災者一人ひとりの状況を現場で見ていると復興という言葉を出せないような状況です。復興と言う言葉が交わせるまでは、全国の支援が必要です。尼崎は来週、神戸は再来週、独自のバスでの支援隊派遣を計画いただいています。同乗、もしくは独自の支援隊をどんどん送ってください。ボランティアの数が足りません。「1000 人、2000 人動員しても足りひんくらいやなぁ」現地入りした森さんの感想です。

現地事務局には、神戸医療の森さん、ヘルスコープおおさかの黒田さん、たじま医療の西垣さんが残ります。１ヶ月現地をつないでいただいた西垣さんに本当に感謝しています。西垣さんは１４日に帰られます。現地事務局の仕事も多くありますので、現地事務局のスタッフ派遣にもご協力いただける生協があれば助

かります。